

# AstraZeneca PLC

## 2002年第4四半期および通年業績

“Nexium™、Seroquel™ (セロクエル)、Symbicort™の売上伸長により、

予想以上の1株当たり利益”を達成

### フィナンシャルハイライト (例外的損益項目控除前)

グループ (継続事業*)	第4四半期	第4四半期	恒常為替 %	1-12月期	1-12月期	恒常為替 %
	2002	2001*		2002	2001*	
	\$m	\$m		\$m	\$m	
売上高**	4,901	4,366	+10	17,841	16,222	+9
営業利益	1,074	1,090	-2	4,356	4,156	+5
税引前利益	1,081	1,102	-2	4,387	4,269	+3
1株当たり利益						
例外的損益項目控除前	\$0.45	\$0.45	0	\$1.84	\$1.73	+7
法定会計 (Statutory FRS3)	\$0.25	\$0.42		\$1.64	\$1.65	

\*新報告基準FRS19に従って再計算。

\*\*第4四半期および通年業績は売上原価から売上高に組替えされた売上割引を調整し反映しています。

伸び率は恒常為替率 (CER)。

- 通年の1株当たり利益(例外的損益項目控除前)は7%増、\$1.84でした。1株当たり利益(法定会計)は\$1.64でした。
- 通年の売上は9%増でした。Losec™/Prilosec™ (日本での製品名:オメプラール)を除く売上の伸びは23%でした。
- 通年の営業利益は5%増でした。第4四半期の営業利益は予測された研究開発費のフェーシングおよびその他営業収益減により、2%減となりました。
- Nexium™ の通年の売上はほぼ20億ドルに達しました。米国における総処方量のシェアは12月で20%上回りました。Nexium™ は米国新規処方市場のシェアにおいて第2位のPPI製品となりました。
- Seroquel™ (セロクエル)の通年の売上は67%増、10億ドルを上回りました。米国において双極性障害を伴う急性の躁病の治療薬としてSeroquel™ (セロクエル)使用の適応追加申請が行われました。
- Iressa™ (イレッサ)の第3四半期の日本での上市后、2002年の売上は6700万ドルに達しました。FDAはIressa™ (イレッサ)の審査期間を5月5日まで延長しました。
- 2002年度の研究開発費は計画通り30億ドルを超えました。
- 既に公表されている米国におけるZoladex™ (ゾラデックス)の販売に関する調査に関連して、和解費用引当金3億5000万ドルを例外的損益項目として計上しました。

トム・マキロップCEは、「Losec™/Prilosec™ (オメプラール)を除く売上23%増は、当社の成長製品のポートフォリオの強さを表しています。この勢いを保持することにより2003年度の後発品による売上への影響の大部分を吸収することができるでしょう。今年予定しているCrestor™ ならびにExanta™ の上市后は、2004年以降売上ならびに収益を強力に拡大していくための全ての要因が整います」と述べました。

London, 30 January 2003

ビジネスハイライト 伸び率は恒常為替レート(CER)。

通年の報告ベースの売上は9%増、米ドル安の影響で報告ベースの売上では1%のプラス影響を受けました。営業利益は“報告ベース”、恒常為替(CER)ベースとも5%増、1株当たりの利益(例外的損益項目控除前)7%増の \$1.84でした。取締役会は\$0.47(28.5ペンス、3.99スウェーデンクローネ)の第2回中間配当金を2003年4月7日に支払うことを推奨しま

した。通年の配当金は\$0.70 (43.2 ペンス、6.20スウェーデンクローネ)となりました。

第4四半期の売上は恒常為替ベースで10%増、営業利益は2%減となりました。営業利益の減少は主として予定された研究開発費増(フェージングによる)とその他営業収益の減少によるものです。報告ベースでは為替変動により売上高についてはプラス1%、営業利益についてはプラス2%の影響がありました。第4四半期の1株当たりの利益は変わらず\$0.45でした。

第4四半期の米国での売上は16%増となりましたが、これは2001年度第4四半期における卸在庫の動きと当四半期における動きを比べた場合、実需を上回っているものと考えられます。当社は第4四半期また2002年度の実績としては通年の伸び率である10%のほうが現実を反映していると考えています。

GI (消化器)製品の売上は通年で7%増でした。それはNexium™ の増収が Losec™/Prilosec™ (オメプラール)の減収をかなり上回ったためです。Nexium™ の売上は米国以外での4億5300万ドルを併せて、19億7800万ドルとなり3倍以上の伸びとなりました。12月にはNexium™は米国においてPPI製品総処方量の20.5%のシェアを占めています。

Losec™/Prilosec™ (オメプラール)の通年の売上は18%減、米国では21%減となりました。オメプラゾールの製品の後発品が米国で12月8日に発売をされましたが、Prilosec™ (オメプラール)の通年の報告ベースの売上への影響はほとんどありませんでした。

ビジネスの勢いはLosec™/Prilosec™ (オメプラール)を除く23% (米国では33%)の売上伸長率が裏付けています。中枢神経(53%増)、呼吸器(16%増)、オンコロジー(12%増)など、それぞれの製品群で力強い成長を遂げています。Atacand™ (36%増)、Seloken™(セロケン)/Toprol-XL™ (27%増)は大きく伸長しましたが、Zestril™ (ゼストリル)の後発品参入により循環器製品全体の売上の伸びはわずか1%にとどまりました。

最近上市した製品-Nexium™、Symbicort™、Faslodex™ (米国において)、Iressa™ (イレッサ・日本において)-の2002年度の売上はおよそ24億ドル (2001年では6億5100万ドル)でした。その他5つの製品-Casodex™(カソデックス)、Arimidex™(アリミデックス)、Atacand™、Seroquel™(セロクエル) Zomig™(ゾーミグ)-の売上は9億ドル増、合計30億ドルとなります。

#### 今後の見通し 伸び率は恒常為替レート(CER)

2002年度の成長製品の好業績は2003年も継続することが予想されます。それはPrilosec™ (オメプラール)、Nolvadex™(ノルバデックス)、Zestril™(ゼストリル)の後発品の影響をほぼ吸収し、恒常為替ベースで全体的に1桁台のゆるやかな減収になると考えられます。しかし、為替の現在の動きが売上に大きくプラスの影響を及ぼす反面、コストベースにおいてその逆効果により相殺されることとなります。Crestor™ ならびにExanta™の上市に向け当社は引き続き全力を尽くして準備を進めていきます。これらのことをふまえて、現在の為替レートで2003年度の1株当たりの利益(例外的損益項目控除前)は\$1.50から\$1.65を予想しています。

**注意:** 当社の利益やビジネスの見通しに対する上記の予測的な記述はリスクや不確実要素をともなっており、実際の結果はこれらと大きく異なる可能性があります。たとえば、米国におけるオメプラゾールの後発品の売上伸び率、新製品の承認取得ならびに上市の成否(とくにCrestor™、Iressa™ (イレッサ)、Exanta™) 既存製品の継続的成長、コストや経費の増加、利息率の動き、為替レートの変動、税率の更なる改善、を含むリスクや不確実要素です。これらやその他のリスクや不確実要素については、2001年アニュアルレポートForm20-を含む証券取委員会への有価証券報告書をご覧ください。

Media Enquiries:	Steve Brown/Emily Denney (London)	(020) 7304 5033/5034
	Staffan Ternby (Södertalje)	(8) 553 26107
	Rachel Bloom (Wilmington)	(302) 886 7858
Analyst/Investor Enquiries:	Mina Blair-Robinson (London)	(020) 7304 5084
	Jonathan Hunt (London)	(020) 7304 5087
	Staffan Ternby (Södertalje)	(8) 553 26107
	Ed Seage/Jörgen Winroth (USA)	(302) 886 4065/(212) 581 8720

Photographs of the AstraZeneca annual results conference are available from newscast at [www.newscast.co.uk](http://www.newscast.co.uk) from 1 pm (UK time) today.

## 売上高

伸び率は恒常為替レート(CER).

### 消化器

	第4四半期		CER %	通年		CER %
	2002	2001		2002	2001	
Losec™/Prilosec™ (オメプラール)	1,115	1,372	-20	4,623	5,578	-18
Nexium™	686	278	n/m	1,978	568	n/m
Total	1,819	1,664	+7	6,664	6,190	+7

- Nexium™ の通年での売上高は、20億ドルをやや下回りました。2002年にはさらに38カ国で上市し、計76カ国で販売されています。世界的にPPI 市場は、引き続き好調な伸びをみせています(約20%)。主要な国々のPPI市場でのNexium™ のシェアは2002年10月時点で16%でした。
- Nexium™ の米国での売上高は、第4四半期の5億2,100万ドルを含み、通年で15億2,500万ドルでした。米国PPI市場での総処方量のNexium™ のシェアは、12月時点で20.5%まで増加し、消化器専門医におけるそのシェアは、さらに高くなっています (27%)。
- Losec™/Prilosec™ (オメプラール)の売上高は通年で18%減少しました。米国で21%減少しましたが、これはほぼ処方動向と一致しています。米国以外での売上高(12%減)は、日本およびオーストラリアでの好調な業績に支えられました。
- オメプラールの後発品が12月8日米国で発売されました。オメプラールの総処方量のPrilosec™ (オメプラール)のシェアは1月17日時点で、47%でした。これは、後発品の供給が抑制との報告と一致しています。

### 循環器

	第4四半期		CER %	通年		CER %
	2002	2001		2002	2001	
Zestril™ (ゼストリル)	144	256	-44	877	1,067	-18
Atacand™	160	124	+24	569	410	+36
Seloken™ (セロケン) / Toprol-XL™	263	165	+60	901	711	+27
Plendil™ (スプレンジール)	139	136	-	489	463	+5
Total	894	900	-3	3,569	3,483	+1

- 米国でのZestril™ (ゼストリル)の処方量は、7月に後発品が発売されて以来、急減しました。第4四半期の米国での売上高は、4,600万ドルでした。
- Atacand™ の2002年の売上高は世界で、36%増でした。これは、アンジオテンシン受容体阻害剤クラスの伸長率をわずかに上回っています。第4四半期の売上の伸びは、好調な昨年の第4四半期に対して15%にとどまりましたが、通年の米国での売上高は37%増でした。米国での第4四半期の総処方量は24%増でした。
- 米国でのToprol-XL™ の処方量は引き続き好調に伸びています(通年で38%増)。これは、米国での報告ベースの売上高43%増と一致しています。第4四半期の米国での売上高は1億8,200万ドルで、これは処方の需要とほぼ一致しています。高い伸長率(107%増)は、昨年の第4四半期の在庫調整が反映されています。

## 呼吸器

	第4四半期		CER %	通年		CER %
	2002	2001		2002	2001	
Pulmicort™ (パルミコートタービュヘイラー)	237	203	+14	812	766	+5
Accolate™ (アコレート)	52	30	+73	144	143	+2
Rhinocort™	76	74	+3	299	265	+13
Oxis™	29	33	-18	120	127	-9
Symbicort™	105	49	n/m	299	83	n/m
Total	537	429	+21	1,818	1,539	+16

- Symbicort™ の第4四半期の売上高は1億500万ドルで、通年で総計2億9,900万ドルでした。本製品は40カ国以上で上市されました。欧州全域における喘息の配合剤の金額ベースシェアは11月時点で22%を超えましたが、スウェーデン(48%)およびドイツ(30%)でより顕著でした。COPD(慢性閉塞性肺疾患)治療の申請がEUで審査されています。
- Pulmicort™ Turbuhaler™ (パルミコートタービュヘイラー)の世界での売上高は、配合剤製品の受容の伸びにもかかわらず、気管支喘息の吸入ステロイド市場の縮小が反映されています。これは、米国でのPulmicort™ Respules™ の好調な伸び(75%増)による相殺を上回るもので、このためPulmicort™ は通年で5%増を達成することができました。
- Rhinocort™ Aqua の米国での売上高は点鼻ステロイド市場で3ポイント以上のシェアを伸ばしたことにより、通年で39%増でした。これは、2002年度の世界におけるRhinocort™ フランチャイズが売上を13%伸ばした主な理由です。
- 米国における第4四半期のAccolate™ (アコレート)の売上高の急増は、卸業者の大幅な在庫積み増しの結果です。米国でのAccolate™ (アコレート)の処方量は通年で21%減でした。

## オンコロジー

	第4四半期		CER %	通年		CER %
	2002	2001		2002	2001	
Casodex™ (カソデックス)	184	173	+5	644	561	+15
Arimidex™ (アリミデックス)	92	51	+78	331	188	+75
Nolvadex™ (ノルバデックス)	138	181	-24	480	618	-21
Zoladex™ (ゾラデックス)	206	205	-	794	718	+12
Faslodex™	16	-	n/m	35	-	n/m
Iressa™ (イレッサ)	41	-	n/m	67	-	n/m
Total	681	614	+11	2,369	2,111	+12

- Arimidex™ (アリミデックス)はアロマトーゼ阻害剤市場で乳がん治療薬のリーディングプロダクトとしてのポジションを強固なものとししました。早期乳がんのATAC試験の良好な結果が添付文書や臨床の現場で取り入れられたことから、マーケットシェアは拡大しました。米国での月間処方量は2001年12月以来倍増し、通年の売上127%増の原動力となりました。米国以外の売上は51%増でした。
- Casodex™ (カソデックス)の米国以外の2002年の売上高は42%増、4億6,400万ドルでした。これは、Casodex™ 150 mg 錠が早期前立腺がん治療薬として41カ国で認められたことによります。FDAの抗腫瘍剤諮問委員会は12月、この適応で米国での承認を推奨しませんでした。ただ、この新適応症の恩恵を受けませんでした。米国市場で昨年Casodex™ (カソデックス)の処方は約5%伸びました。従って米国での報告ベースの第4四半期の売上減(35%減)は潜在需要を示しているのではなくむしろ、2001年第4四半期の卸業者の在庫積み増しによる結果に対する比較を示しています。
- 米国におけるNolvadex™ (ノルバデックス)の第4四半期の売上高は9,900万ドルで、当社とBarr Laboratoriesとの販売契約満了に伴う影響から、タモキシフェン製品の売上がいくぶん回復したことによります。第4四半期の売上高は依然として24%減、通年で21%減でした。米国におけるNolvadex™ (ノルバデックス)の売上は、2月の特許切れ後に大幅な減少が予想されます。

- 進行乳がん治療薬Faslodex™の売上高は、米国市場で発売8カ月後、3,500万ドルに達しました。進行乳がんの二次治療での欧州における申請は、本年第1四半期後半に予定されています。
- 手術不能又は再発非小細胞肺癌治療薬Iressa™（イレッサ）の売上高は、日本において発売後4カ月で6,700万ドルを達成しました。これは、重要なメディカルニーズが満たされていないこの領域での受容の高さを示しています。米国では、FDAが申請の審査期間をさらに3カ月延長することを決定しました（2003年5月5日）。欧州での申請は本年の第1四半期後半を予定しています。

### 中枢神経

	第4四半期		CER %	通年		CER %
	2002	2001		2002	2001	
Seroquel™（セロクエル）	357	170	+109	1,145	685	+67
Zomig™（ゾーミグ）	94	67	+39	328	273	+19
Total	460	243	+87	1,505	980	+53

- Seroquel™（セロクエル）の売上高は、67%の好調な伸びを示し、メガブランドの指標である10億ドルを2002年に超えました。米国市場での新規処方シェアは12月時点で19.2%、通年では3.7ポイント増でした。Seroquel™（セロクエル）の日本における金額ベースのマーケットシェアは発売後1年で25%です。Seroquel™（セロクエル）双極性障害を伴う急性の躁病（躁鬱病）の治療の適応追加を米国で申請することを1月2日に発表しました。欧州での申請は本年第1四半期後半に予定されています。
- 米国におけるSeroquel™（セロクエル）の第4四半期の売上高は130%増でした。第4四半期に卸業者の在庫積み増しがややみられ、主に昨年の第4四半期の供給抑制と比較して高い伸び率となりました。
- 通年のZomig™（ゾーミグ）の売上高は19%増で、主に米国（20%増）ならびに日本（67%増）、フランス（29%増）で売上が伸びたことによります。Rapimelt™錠および点鼻スプレー剤型が追加されたことにより発売された国において本製品群は拡大されました。米国におけるZomig™（ゾーミグ）の第4四半期の売上高は、卸業者の在庫積み増しがややみられます。Zomig™（ゾーミグ）の米国での処方量は通年で11%増となり、トリプタン製剤全体の伸長をやや上回っています。

### 疼痛、感染症ほか

	第4四半期		CER %	通年		CER %
	2002	2001		2002	2001	
Merrem™	69	65	+8	285	227	+26
Diprivan™（ディプリバン）	117	133	-13	443	456	-3
Xylocaine™（キシロカイン）	51	57	-9	179	212	-14
Marcaine™（マーカイン）	23	26	-12	77	87	-11
Total	375	404	-7	1,418	1,496	-5

- Merrem™の売上高は通年で26%増でした、これは主に米国以外の売上が31%伸びたことによります。
- 米国におけるDiprivan™（ディプリバン）のわずかな売上増は、プロポフォールが後発品によるわずかなマーケットシェア減を相殺し、プロポフォールの潜在需要を伸ばした結果でした。

## 地域別売上高

	第4四半期		CER %	通年		CER %
	2002	2001		2002	2001	
米国	2,564	2,219	+16	9,351	8,483	+10
欧州	1,528	1,439	-1	5,695	5,238	+5
日本	314	260	+27	977	851	+21
その他	495	448	+14	1,818	1,650	+13

- 米国の売上高は通年で10%増でした。Prilosec™ (オメプラール)を除く売上の伸びは、Nexium™、Seroquel™ (セロクエル)、Toprol-XL™、Pulmicort™ Respules™、Arimidex™ (アリミデックス)の好業績により33%でした。
- フランス(13%増)やイタリア(16%増)の好業績は、ドイツ、英国の売上減を上回るもので、結果として欧州の通年の売上高は5%増でした。Nexium™、Symbicort™、Casodex™ (カソデックス)、Seroquel™ (セロクエル)が原動力となって、売上は伸びました。
- 日本での通年の売上高は、21%増でした。これは、Iressa™ (イレッサ)の好調な上市を含むオンコロジー領域の好業績製品群および、 Losec™ (オメプラール・40%増)が引き続き売上を好調に伸ばしたことによります。

## 営業レビュー

---

### 通年

売上高は9%増、178億、4100万ドルで、営業利益(例外的損益項目控除前)は5%増、43億5,600万ドルでした。営業利益率は24.4%で昨年と比較して1.2ポイント低下しました。為替の影響による利益率の減少は0.3ポイントで、残りの0.9ポイントについては主にその他営業収益の減少によるものです。ほかには、製品構成の向上とメルクへの支払いの減少により、売上原価は0.6ポイント低下し、対売上比率は25.3%でした。一方、販売管理費は売上の伸びとほぼ一致しました。R&D 費は0.6ポイント上昇し対売上比率は17.2%でした。これは主に臨床試験費の増加によります。R&D 費および販売管理費の合計は、恒常為替レートで約10%増でした。

為替はドル安のため売上に1%の好影響となりました。これは費用へのマイナスの影響と相殺され、昨年と比較して、利益面では若干のマイナス影響となりました。

### 第4四半期

売上は10%増、49億100万ドルで、営業利益(例外的損益項目控除前)は2%減、10億7,400万ドルでした。これにより、営業利益率は3.1ポイント低下し、対売上比率は21.9%でした。売上原価率25.6%で、2001年より0.3ポイント低下しました。これは主に製品ミックスの向上とメルクへの支払いの減少によります。R&D費は、8億9,200万ドル、対売上比率18.2%でした。この増加は主に第4四半期に実施された主な臨床試験のために多数の患者登録を行ったことによる臨床試験費用の増加が原因です。ドルベースによるR&D費は、為替のマイナス影響により約5%上昇しました。販売管理費は16億6,100万ドル、対売上比率33.9%でした。この増加は主に管理費および為替のマイナス影響によるものです。第4四半期の管理費には生産性向上のための多くの小規模な組織再編成のための引当が含まれています。その他営業収益は対売上比率0.4%で、2001年を1.1ポイント下回りました。これは臨時的項目がなかったことおよび昨年を終了したロイヤリティー契約による収益が減少したことによります。

第4四半期の為替の影響による売上の伸びは2%で、主にユーロに対してドル安だったことが挙げられます。これは、英スターリングポンドおよびスウェーデンクローネに対する、ドル安によるコスト高と一部相殺され、営業利益に1%の好影響を与える結果になりました。

## 例外的損益項目

---

先に公表した通り、米国司法省はZoladex™(ゾラデックス・酢酸ゴセレリンインプラント)の販売に関し調査を実施しました。この調査は1997年に民間団体による刑事的民事的訴訟(a qui tam complaint)によって開始され、メディケアおよびメディケイドプログラムに対する不当な請求に対する申し立てを含んでいます。当社、連邦および州政府当局は係争中の本訴訟の和解の可能性を交渉中です。結果、最終和解はまだ成立していませんが、当社は和解費用引当金として3億5,000万ドルを計上することが妥当であると考えております。

## 利息

---

第4四半期の受取利息は700万ドルで通年では3,100万ドルでした。第4四半期の受取利息は為替と小額の再評価損失が含まれます。

## 税金

---

例外的損益項目を除き、2002年第4四半期および通年の実効税率は、2001年の28.4%に対し26.8%でした。2001年の税率はFRS19に基づき再計算されました。詳細については予備報告書の注釈1を参照ください。例外的損益項目については税金控除はしていません。

## キャッシュフロー

---

例外的損益項目控除後の営業活動によるキャッシュフローは、昨年より18億ドル上回り、通年で約56億ドルでした。設

備投資額15億ドル、納税額8億ドル、配当金12億ドル、株の買い戻し費用12億ドルを差し引いた後の、正味キャッシュファンドの増加額は10億ドル弱でした。本年度末の正味キャッシュファンドは38億ドルでした(2001年は29億ドル)。

## 株の買い戻しプログラム

---

第4四半期は、総額2億9,500万ドルで普通株式780万株(額面0.25ドル)で買い戻され消却されました。これにより通年では、総数2,840万株、総計11億9,000万ドルになります。本プログラムがスタートしてから、買い戻し消却された株の総数は現在6560万株となり、買い入れ金額は28億500万ドルです。

発行株式数は2002年12月31日現在、17億1,900万株です。

先に発表された株の買い戻しプログラムに基づき約12億ドルが残っており、2003年末までにはプログラムが終了する見込みです。

## 今後のマイルストーンおよび主なイベント

---

4月30日	第1四半期業績発表
4月30日	2003年度年次総会
7月24日	第2四半期業績発表
10月2日	アニュアル・ビジネス・レビュー
10月23日	第3四半期業績発表

サー・トム・マキロップ  
チーフ・エグゼクティブ